

# 「気付き」を育む①

株式会社川原経営総合センター 経営コンサルティング部門 久保田 真紀

今回からは、「気付き」を促していくための工夫についてご紹介します。

「施設で行っている移乗介助について、怖いという利用者の声も聞いていましたし、自分自身も腰に負担がかかって大変だと感じていました。福祉機器の展示会に行った際、移乗をサポートする大変便利な機器を見つけたので、職員会議で、現在の問題点をあげながら導入の提案をしました。ところが先輩職員にとっても嫌な顔をされ、話しあうことなく終わってしまいました。何がいけなかったのでしょうか。」

そう話すのは、高齢者福祉施設で働く若手職員のBさんです。

「なぜ話しあいに至らなかったのか」という部分に焦点を当てて、気付きについて考えてみましょう。

\* \* \*

気付きは前触れもなく突然起こることもありますし、何かのきっかけによって起こることもあります。しかし、職場における気付きについては、自分のこれまでの経験や考え（価値観など）と、今起きている事象（事柄）を照らしあわせた時、その違いや変化を認識し、新たなアイデアを生み出すことができるかという点がもっとも大切になってきます。

経験が浅かったり偏っていたりすると、おのずと気付きの幅は狭く浅くなります。また、異なる点や新しい点を見出すということは、これまで

の経験や自分の考えを否定することにもつながりかねないため、気付くことをあえて避けたり、気付かないフリをしてしまったりすることもあります。経験が多い人ほどこうした傾向に陥りやすくなります。

\* \* \*

事例に戻って考えてみると、先輩職員たちは必ずしもBさんが提案した福祉機器がよくないと思っていたわけではないと考えられます。

「自らのこれまでの経験が活かせるのではないか」、「新しい方法についていけるか心配」、「費用はいくらかかるのか。購入の承認がでるはずがない」など不安が先に立ってしまった結果、話しあいをもつことを避けてしまったとも考えられないでしょうか。

\* \* \*

よりよい気付きを促していくためには「自分のこれまでの経験や考え（価値観）だけがすべてではない」と

思ってもらうきっかけを作っていくことから始めると、話がスムーズに進んでいきます。

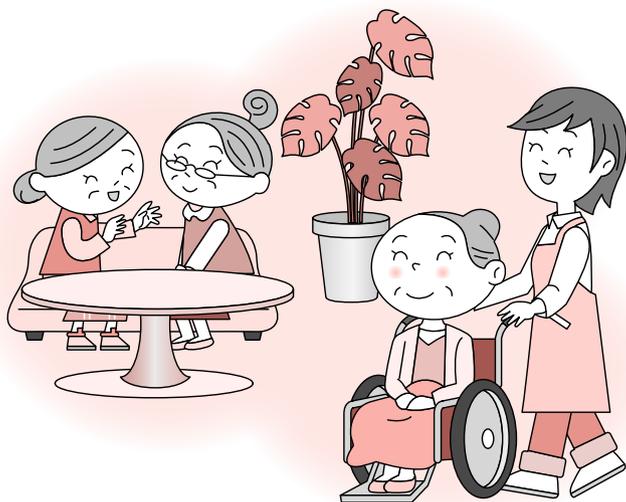
まずは現在の移乗介助でよかったことや成果を明らかにすることで取り組みを評価すること。そして、利用者の安心をさらに高めていくためにも、職員の体制や個々の体調にかかわらず、すべての職員が同じようにスムーズな移乗ができるようにするためにはどうすればよいか。導入による費用対効果なども加味しながら話を進めていくのもよいでしょう。

\* \* \*

職場における気付きでもう一つ大切なのは、「将来を見据えた気付きができるか」という点です。その力を伸ばす一番の近道は、日頃から自分以外の人間に興味関心を寄せることです。他の職員の行動や言動、考え方を知りながらその角度で事柄を考えてみることで、深みと広がりのある気付きが生まれます。

現在の移乗介助について、他の職員がどのように思っているのかを事前に調べ、さまざまな切り口から提案をしてみるというのも一つの方法です。施設が目指す介護の姿との齟齬に気付いた時、一歩先を見据えた気付きが生まれてくるかもしれません。

気付きは、仕事においても人間関係においてもよい変化をもたらします。職場のさまざまな場面で、気付きを意識した取り組みを進めてみてはいかがでしょうか。



プロフィール  
Profile

久保田 真紀 (くぼた まき)

社会福祉士、保育士。都道府県社会福祉協議会にて、法人の経営基盤強化や施設の運営に向けた支援のほか、当事者活動支援、福祉教育にかかわる業務に従事。現在は、(株)川原経営総合センターにて、法人・施設等の設立、運営支援、職場内環境改善に向けた調査分析などに携わる。